

東京音楽大学附属民族音楽研究所刊行物リポジトリ

Title	東京音楽大学附属民族音楽研究所所蔵楽器の紹介(5)
Title in another language	Musical Instruments Housed at the Institute of Ethnomusicology, Tokyo College of Music (5)
Author(s)	小日向英俊 (KOBINATA Hidetoshi)
Citation	伝統と創造=Dento to Sozo, Vol. 8, p. 53-57
Date of issue	2019-03-25
ISSN & ISSN-L	Print edition: ISSN 2189-2350, Online edition: ISSN 2189-2482, ISSN-L 2189-2350
URL	http://www.minken1975.com/publication/IE_B08201805.pdf

東京音楽大学附属民族音楽研究所所蔵楽器の紹介 (5)¹
 Musical Instruments Housed at the Institute of Ethnomusicology,
 Tokyo College of Music (5)

小日向英俊
 KOBINATA Hidetoshi

本稿は、本学附属民族音楽研究所が収蔵する楽器コレクション紹介シリーズ第5回目である。具体的な楽器・音具を見ることにより地球上の様々な地域の音楽への関心を高め、さらに音楽教育全般と世界音楽教育に不可欠な資料として活用する目的で情報提供を行う。

キーワード：楽器学 Organology、
 楽器コレクション Collection of musical instruments、音具 Sound instruments、
 楽器資料の教育資源化 Utilization of musical instrument information in education

1 はじめに

本稿は、東京音楽大学附属民族音楽研究所が収集する楽器の紹介シリーズ第5回目である。掲載楽器の製造・使用地域、楽器の構造は、表1のとおりである。本稿では研究所所蔵資料のうち、南アジア地域で演奏される楽器から、体鳴楽器1点、弦鳴楽器3点の計4点を掲載する²。

表1：掲載楽器一覧³

No.	楽器名	HS番号 ⁽¹⁾	地域	国名 (生産地)	登録番号	購入日
01	チムター Cimṭā	111.12	南アジア 356	インド ⁽²⁾ IND	未定	不明
02	ディルルバー Dilrubā	321.321	南アジア 356	インド IND	08	1994/04/21
03	サロード Sarod	321.321	南アジア 356	インド ⁽²⁾ IND	09	1994/04/21
04	ゴビーチャンド ⁽³⁾ Gopīcand	332 ⁽⁴⁾	南アジア 356	インド IND	11	1994/04/21

⁽¹⁾ 該当番号の詳細については、「3 付録：楽器一覧に使用したHS楽器分類番号の詳細」を参照。

⁽²⁾ 現パキスタンを含む。

⁽³⁾ サンスクリット語では、ゴビーヤントラgopī-yantra (牛乳屋の妻+楽器) であるが、ベンガル地域ではこの名称がよく使われる。コモクkhamakも似た原理で発音する同種の楽器。

⁽⁴⁾ 改訂版HS楽器分類での番号。楽器の実体と機能をよく表現している。

1.1 体鳴楽器

膜や弦を張ることなく、その個性と弾力性により振動し音を発する物体を音源とする音具⁴。



1. チムター

L. 675, W. 60, D. 65 (mm)

名称言語：ヒンディー語など

製造国：インド (西インド)

製造年：不明

説明：名称は調理器具トングの意。U字形に曲げた金属板に小形シンバルが付いた西インドの民俗楽器。奏者は楽器を水平に持ち、金属板を打ち合わせ、リズムを刻む。

1. 2 弦鳴楽器

固定点の間に、単数のまたは複数の弦を張り渡した音具⁵。



2. ディルルバー

L. 990, W. 210, D. 110 (mm)

名称言語：ヒンディー語

製造国：インド

製造年：1990 年代

説明：名称は、「心を奪う者」の意。金属製の主弦4本と共鳴弦20本の弓奏楽器。共鳴板はヤギの革を張ってある。ネックにはシタールと同様、アーチ型の金属製フレットが紐で結ばれている。歌の伴奏に使用される。



3. サロード

L. 1190, W. 285, D. 150 (mm)

名称言語：ヒンディー語

製造国：インド

製造年：1990 年代

説明：シタールと並び北インドの代表的独奏楽器。金属製の主弦、リズム弦（チカーリー）と共鳴弦を持つ撥弦楽器（本資料では各6本、2本、11本）。ココナツの殻で作ったピックを使用。共鳴板はヤギの革。ネックに張った金属指板のため、スライド奏法が容易になった。



4. ゴーピーチャンド

L. 548, W. 120 (mm)

名称言語：ベンガル語

製造国：インド

製造年：1990 年代

説明：ベンガル地方の、特にバウル教徒が歌の伴奏に使う民俗楽器。共鳴胴の底に張った皮膜と糸巻きの中の1弦を弾きながら、竹製支柱をたわめることで音高を変化させる。リズムとドローンを提供する。本資料は小型タイプ。

2 参考文献

凡例：以下の省略記号を利用する。

NGDMI = Sadie, Stanley, ed. 1997. The New Grove Dictionary of Musical Instruments. (First edition: 1984). London.

NGSODJ = Sadie, Stanley 他編 . 1995. ニューグローヴ世界音楽大事典 . 講談社 .

2.1 楽器・楽器学全般に関する文献⁶

CIMCIM.

- 2011 Revision of the Hornbostel-Sachs Classification of Musical Instruments by the MIMO Consortium. [http://network.icom.museum/fileadmin/user_upload/minisites/cimcim/documents/H - S_20classification_20final_20version_20_28_2013_29_20without_20editorial_20mar_kings-2.pdf](http://network.icom.museum/fileadmin/user_upload/minisites/cimcim/documents/H-S_20classification_20final_20version_20_28_2013_29_20without_20editorial_20mar_kings-2.pdf) (アクセス日:2019年1月5日).

小日向, 英俊編 .

- 2015 東京音楽大学附属民族音楽研究所所蔵楽器の紹介 (2). 伝統と創造:東京音楽大学附属民族音楽研究所研究紀要 . Vol.4, p.53-56.
(オンライン版:http://www.minken1975.com/publication/IE_B04201405.pdf).

- 2014 東京音楽大学附属民族音楽研究所所蔵楽器の紹介 (1). ライブラリーレポート. Vol.1, p. 2-19. (<http://id.nii.ac.jp/1300/00000933/>)

小日向, 英俊 . 木村, 佳代 . 針生, すぐり編

- 2016 東京音楽大学附属民族音楽研究所所蔵楽器の紹介 (3). 伝統と創造:東京音楽大学附属民族音楽研究所研究紀要 . Vol.5, p.71-80.
(オンライン版:http://www.minken1975.com/publication/IE_B05201506.pdf) .

京都教育大学田中多佳子研究室 .

- n.d. 身近な音具たち . (<http://kyoushien.kyokyo-u.ac.jp/taka/index.html>) .

東京音楽大学附属民族音楽研究所明清楽器研究プロジェクトチーム .

- 2018 東京音楽大学附属民族音楽研究所所蔵楽器の紹介 (4). 伝統と創造:東京音楽大学附属民族音楽研究所研究紀要 . Vol.7, p.79-82.
(オンライン版:http://www.minken1975.com/publication/IE_B07201707.pdf) .

2.2 個別楽器に関する文献

1. チムター (Cimṭā)

Dick, Alastair. Helffer, Mireille.

- 1997 Cimṭā. NGDMI. Vol.1, p.371.

京都教育大学田中多佳子研究室 .

- n.d. チムター cimta(ちむたー). 身近な音具たち.
(<http://kyoushien.kyokyou.ac.jp/taka/1147.html>) .

2. ディルルバー (Dilrubā)

Dick, Alastair.

- 1997 Dilrubā. NGDMI. Vol.1, p.569.

3. サロード (Sarod)

Dick, Alastair.

1997 Sarod [sarodā]. NGDMI. Vol.3, p.298-299.

草野, 妙子.

1994 サロード sarod. NGSODJ. Vol.7, p.330.

Powers, Harold S.

1994 インド II. 古典音楽の理論と実践 6. 楽器 (i) 弦楽器 (b) ラバールとサロード. NGSODJ. Vol.2, p.59-60.

◦視聴覚資料:

カーン, アムジャッド・アリー.

1995 ラーガ・ドゥルガー: 北インド古典音楽. 音と映像による新世界民族音楽大系. Vol.7. 日本ビクター.

4. ゴーピーチャンド (Gopīcand)

Dick, Alastair.

1997 Gopīyantra. NGDMI. Vol.2, p.68.

京都教育大学田中多佳子研究室.

n.d. ゴピチョンド gopichand (ごびちよんど). 身近な音具たち.
(<http://kyoushien.kyokyo-u.ac.jp/taka/1032.html>).

Qureshi, Regula.

1994 インド IV. 民俗音楽 5. 音楽的特徴 23. インドの2種類の撥弦太鼓. NGSODJ. Vol.2, p.77.

◦視聴覚資料:

ダース, プルノ・チョンドロ 他.

1995 ベンガル地方の民謡. 音と映像による世界民族音楽大系. Vol.7. 日本ビクター.

2. 3 その他の参考文献:

United Nations Statistics Division.

2019 Standard country or area codes for statistical use (M49). United Nations Statistics Division. <https://unstats.un.org/unsd/methodology/m49/>(2019年版) (アクセス日: 2019年1月5日).

3 付録: 楽器一覧に使用したHS楽器分類番号の詳細

111.12	相互打奏体鳴楽器: 相互打奏板 (板型拍子木)
321.321-6	鉢 (椀) 型 (胴) 頸柄リュート: プレクトラムにより発音
321.321-7	鉢 (椀) 型 (胴) 頸柄リュート: 弓により発音
332	可変張力弦鳴楽器: 棹の端部と太鼓膜面の間に弦を張るもの (摘奏太鼓)

-
- ¹ 本シリーズ(1)～(4)はそれぞれ、[小日向 2014]、[小日向 2015]、[小日向・木村・針生 2016]、[東京音楽大学附属民族音楽研究所明清楽器研究プロジェクトチーム 2018]。
 - ² インド楽器シタールとサーランギーは、本シリーズ(1)にも掲載がある。
 - ³ 掲載する地域名と国名は、国連統計部が発表する地域名および国名とその3桁コードとアルファベット3文字のISO ALPHA-3コードに基づく。[United Nations Statistics Division 2019]を見よ。
 - ⁴ 本シリーズ(1)の定義により「楽器」の上位概念である「音具」を使う。[小日向 2014:5]を見よ。
 - ⁵ 定義詳細については、[小日向 2014:7-8][CIMCIM 2011:12]を見よ。
 - ⁶ 本シリーズ(1)に掲載した楽器・楽器学全般に関する文献と視聴覚資料については、[小日向 2014]を見よ。

